

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672000110		
法人名	株式会社うえもり		
事業所名	グループホームふれあい A棟		
所在地	京都府与謝郡与謝野町字明石652-1		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2672000110-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【経営理念】人としてのありたい姿を支援続け、一人ひとりの生活を穏やかなものにする。</p> <p>会社のコンセプトを、「福祉のうえもり～もう一度、笑顔の日常。」として、常に笑顔で、周囲を笑顔にし、いつも優しく落ち着いて行動することで、みんなを安心させ、互いに想いを共有しあい、本当にうれしい気遣いを追求し、誰にとっても居心地のいい場を作り、他の人の誇りを大切に、自ら誇れる行動をし、全ての人・物事に感謝の気持ちを持ち続けるようにする。・・・このことを目標に日々、努力している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「人としてのありたい姿を支援続け、一人ひとりの生活を穏やかなものにする」との経営理念を掲げ、全職員に理念の大切さやホームの目指す方向を分かりやすく伝えていきます。家庭的な環境の中で日常的に家事に携わったり自由な暮らしに向け毎日散歩を日課としている方が複数おり納得いくまで出かけるなど、個々の利用者の思いに寄り添った支援に努めています。職員の育成にも力を入れ全員が研修を受けられるよう同じ研修を行う等工夫し、日々職員が意見を言いやすい雰囲気を作り会議やミーティングで話し合いサービスの向上に繋げ、毎月人材活性化支援プログラムを利用して職員の職場満足度アンケートを行うとともに個別に相談できる体制を整えています。また、協力医や訪問看護師との連携を図り重度になった利用者も本人と家族の意思を大切に看取り支援にも取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念をホーム玄関に掲げ、名札の裏にも記載している。また、月1回の職員会議の中で、理念の確認と共有に努めている。	どのようなホームにしていきたいかを考え「人としてのありたい姿を支え続け、一人ひとりの生活を穏やかなものにする」と経営理念をつくり、3回に分けて会議を行い全職員に伝えていきます。入職時に理念に込められている思いを伝え、また職員会議のレジュメに理念を載せ意識しながら理念に沿ったケアとなるよう話し合い実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭りに参加している(神楽にも来てもらっている)。地区で行われている防災訓練に参加している。また、地域の文化祭に、作品(習字等)を出品。	地域の春祭りには神楽に来てもらったり近くの神社の奉納したものを見に行き、夏祭りの際は毎年招待を受け可能なときには参加しています。近隣の保育所の行事の際には駐車場を解放し、餅つきには利用者が参加し楽しんでます。隣設するデイサービスにコーラスや日本舞踊等のボランティアの来訪時に参加したり、ホームの夏祭りは運営推進会議で案内し地域の方を招いており、地域交流に力を入れ取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が相談型認知症カフェをしているため、地域の方々から随時、相談を受ける機会が多い。また、スタッフもキャラバンメイトとしてサポーター養成に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際行っている運営推進会議において、サービスの状況や評価について話し合う場を持っており、その会議の結果を職員会議の場において報告し活かしている。	会議は複数の家族や民生委員、区長、市職員又は地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。利用者の状況や行事、職員の状況、研修等の報告を行い、情報交換や意見交換をしています。近隣の寺のもみじ祭りの案内をもらったり、質問があれば都度答えるなど、運営に活かせる会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課の担当者に、二ヶ月に一回の運営推進会議に出席してもらっている。また、管理者が地域推進員、キャラバンメイトのメンバーとして福祉課との交流にも努めている。	町職員に運営推進会議に出席してもらったり、地域ケア会議へ職員が出席した際に意見交換する機会があります。管理者は地域推進委員やキャラバンメイトの会合に出席し協力関係を築き、グループホーム連絡会で話し合った内容から連名で行政に補助金の要請を行ったこともあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	このホームを運営し始めたときから、玄関の施錠や身体拘束のないケアに取り組んでおり、京都府からの実態調査をもとに職員会議で確認したり、講習会を行っている。	年に1回身体拘束についての研修を行い、また委員会で話し合った内容を職員に伝え、言葉や薬による行動の抑制、玄関の施錠等について職員に周知しています。鍵は掛けず外に行きたい方には納得できるまで外出支援をし、家族の了承の下センサーを使用している方には安全に動くことを支援するために使い必要性を会議で検討しています。	

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待について取り上げて、虐待防止に取り組んでいる。スタッフがストレスを一人で抱え込まないように個人的な話し合う場を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に、外部で行なわれる研修に参加し、ホームに持ち帰り内部研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前(契約の際)には、時間をとって、できる限り分かりやすく、説明している。また、解約に関しても、その度状況に応じ話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や会話から、その想いを察する努力をして、利用者のしたいことが叶えられるよう、心掛けている。また、会議の中でご家族の要望を共有し合う場を設けている。2008年より、介護相談員の受け入れをしている。	家族には毎月の手紙や写真を送り利用者の様子を伝え、面会時や電話を掛けた時、運営推進会議の際に意見や要望を聞いています。利用者の要望は日々の関わりの中で聞き、カラオケ等のレクリエーションに反映したり買い物で好きなものを買うなど利用者自身が選ぶことができるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング・職員会議などで、意見を聴くようにしている。また、ユニットリーダーが直接代表者に意見できるように一カ月に一回話し合いの場を設けている。人材活性化支援プログラム(CAP)の導入にて支援に役立っている。	毎月行う職員会議や毎朝のミーティング、日々の中で職員から意見や提案を聞き、言いやすい雰囲気作りや会議に出席できない職員には話し合っしてほしい内容を事前に聞いています。業務改善についてやCS放送の導入など職員の意見から運営やサービスに反映しています。毎月人材活性化支援プログラムを利用して職員の職場満足度アンケートを行うとともに個別に相談できる体制を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的にまた会議等で、悩みなど聴けるよう努めている。また、聞き取りによって、ご利用者の状況に応じ勤務体制の見直しを検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加している。自らの目標をもって働いていけるよう助言している。		

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回、与謝野町グループホーム連絡会に参加し交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前面談をして、出来る限り顔を合わせながら生活状態の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯や、想い、悩みなどゆっくりと聴けるよう配慮し、管理者職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネと連絡をとりあい、また、できる限り柔軟な対応ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者と買い物に行ったり、お弁当を持ってドライブに出かけたり、一緒に作ったご飯を「おいしいね」と一緒に食べたり、想いを共にしながら過ごしている。常に寄り添う努力をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを常に共有できるよう面会時出来る限り要望を聴くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域からの働きかけや、ご家族の要望等には応えるようにして、継続できるように支援している。	近隣から入居した方も多く地元の敬老会の参加や自宅に帰るための送迎をしたり出かける準備等を支援しています。馴染みだったスーパーへ買い物に行き友人や顔見知りの店員と会話することもあります。また友人や教え子の来訪があった時には居室でゆっくり過ごしてもらえるよう椅子やお茶を準備しています。友人から年賀状などが届いた際には一緒に読み懐かしむこともあります。	

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活全般（調理・洗濯など）において、利用者同士が、積極的に自分たちで行えるように、さりげない配慮を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にはいつも応じている。ホーム側としては、いつでも支援できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の疎通が可能な状況下においては、できる限り本人の希望に沿えるようにしている。また、意志の疎通が困難な方であっても、仕草や行動から、その想いを汲み取ったり、ご家族に情報をいただいたりしている。	入居前に施設や病院など本人が暮らしているところに出向き利用者や家族と面談し、生活歴や趣味、習慣、暮らしへの要望などを聞き思いの把握に努めています。入居後は日々のかかわりの中で得られた情報は記録に残したり会議で意見を出し合い、意思疎通が困難になってきた利用者の思いも本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用の最初には、ご家族や本人などから、聞き取りをしている。利用後も、疑問が出てくれば、常に問い合わせさせてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること・できないことなどを把握し、ケアプランの見直し時にも、随時ミーティングや会議などで確認するよう努めている。一日一回バイタルチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で意見交換し、さらに関係者（ご家族など）には面会時に、意見・要望を聞き、ケアプランに反映できるよう努力している。	利用者や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し、3ヶ月ごとの会議の中でサービス担当者会議とモニタリングを行い見直しています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、家族の意向の確認や医師や訪問看護師の意見を会議前に聞いておき計画に反映しています。日々の実施状況を記録に残せるよう様式を工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、出勤している職員は1人ずつ、それぞれの個別記録に毎日記載して、気になることはミーティングや引継ぎで共有している。		

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への送迎や通院など要望には応じられるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるように、消防署への協力、中学生ボランティアへの受け入れをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	伊藤内科医院が協力医療機関となっており、2週間に1度は往診してもらっている。	入居時にかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在は全員が協力医の往診を2週間ごとに受け、24時間対応してもらったり体調不良の際に随時の往診を受けることもあります。また週に1度訪問看護師による健康管理を受け、重度化した場合には個別に訪問看護を受けています。専門医へは基本的に職員が同行し、必要に応じて歯科の往診を受けることもできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くの訪問看護ステーションと契約を結び、医療の必要な利用者には、健康管理をおこなってもらっている。また法人内のデイの看護師にも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、入院のダメージを少しでも防ぐため、管理者やスタッフが病院と情報交換し、入院が長期化しないよう努めている。(入院中は、毎日の面会、ノートでの情報交換を実行)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や、ご家族の気持ちを大事にしつつ、随時、ご家族、医師、管理者が話し合いをし、職員とも確認しながら進めている。協力医療機関に、常時、急変時の対応もしてもらっている。	入居時に重度化した場合のホームでの対応を説明しその時点での意向を聞いています。重度化した時には医師から家族に利用者の状況を説明してもらい、職員も含め三者で話し合い方針を決めています。殆どの方がホームでの看取り支援を希望し、家族の面会や泊まり込みなどの協力を得ながら、医師や看護師からアドバイスを受け個々にあった支援ができるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必要に応じ消防署の協力を得て、救命救急の講習会を実施している。		

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて地域の方々の協力が得られるよう働きかけている。防災訓練も定期的に行なっている。	消防訓練は年に2回昼夜を想定し、消防署の立会いの下通報や初期消火、利用者も参加して避難誘導を行う他、2ヶ月に1回通報などの自主訓練を行っています。法人社長が地域の消防団の副分団長であり連携体制を整え、訓練には近隣の方や民生委員などに声をかけ区長の参加を得たこともあります。地域の福祉避難所の登録をし、地域の訓練は安否確認し報告しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応には、十分に配慮し支援することを心がけている。また、個人記録は鍵付きのロッカーに保管している。	年に1回接客マナーの研修を行い、全員が受けることができるよう同じ研修を2回行い更にビデオにも撮りどちらにも出席できない場合に見てもらっています。入職時にも研修を行い身だしなみにも注意を払い、利用者を尊重し丁寧な対応に努めています。また希望に応じて入浴時等に同性介助を行い、羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな状況で、できる限り自分で選択してもらえよう、声掛けや場面作りなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活(みんなで助け合っ)を主体にはしているが、できる限り一人ひとりの生活も、状況に応じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に応じ、積極的に食事作りに参加してもらい、協力してできた達成感と共に食事を味わえるよう努力している。	食材は注文したり地域の魚屋を利用し、足りないものをスーパーに買いに行き、昼食は魚を中心にその日にある食材を見て献立を決めています。利用者は食材を切ったり、下ごしらえや食器洗い等に携わってもらい職員も一緒に食事を食べ和やかな食事時間となっています。利用者に食べたいものを聞いたり季節行事に合わせ恵方巻きや流しそうめん、おはぎ作りなどを行い食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、できる限り多くの食材を、摂取してもらえるよう配慮している。また水分摂取に関しては、気になる利用者にはこまめに摂取してもらったり、細かく水分量の記録をつけるよう配慮している。		

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前、歯磨きの声掛けをしたり、能力に応じて職員が介助を行なっている。義歯も洗浄してもらえるよう声掛けをしている。また、協力医療機関との連携体制が整い定期的な往診がある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けの工夫など、一人ひとりの状態に合わせて自立に向けた個別の支援計画を立てて実施している。	個々の記録から排泄パターンを把握し、立位のとれる方はその人のタイミングでトイレに行けるよう支援しています。排泄用品の種類の選択や支援方法は日々のミーティングで話し合ったり、業者に相談し試供品で試しながらその人に合ったものを考慮することもあります。退院後は早期に元の状況に戻るよう支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューの中に便通に良い食品を取り入れるように工夫をしている。(乳製品、繊維質の多い野菜など)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したいという希望があれば、毎日でも出来る限り入浴してもらえるよう、努力している。また入浴剤の使用して気持ちよく入れるようにしている。	入浴は3日に1回のペースで午前中の時間帯を基本に支援し、希望があり自立度が高い状況であれば午後や夕食後など他の時間帯や回数を増やす等の対応をすることもあります。ゆず湯をしたり入浴剤の使用等も行い、一人ずつゆっくり会話しながら入浴を楽しめるよう支援しています。拒否される方には関わる人や日にちを変え無理なく入ってもらったり、清拭や足浴で清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて居室のベッドで昼寝してもらっている。また、夜に寝付きにくい時には、話を聴いたり何か食べてもらったりして落ち着いて眠れるように工夫している。また定期的にシーツ交換を実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容のわかる処方箋を保管して、いつでも把握できるよう心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割を、出来る限り持ってもらうたり、カラオケや散歩など気分転換にできるよう支援している。		

グループホームふれあい A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など一人ひとり楽しめる外出支援に努めている。また、ご家族と一緒に外出が楽しめるよう情報提供や支援に努めている。	毎日散歩を日課としている方が複数おり、畑の水やりや外気浴、買い物など外に出る機会を多く作っています。季節毎には初詣や十日戎、桜やあじさいの花見などに出かけたり、秋には希望やその人に合わせて紅葉狩りやみかん狩りに行っています。また地域の行事や文化祭へ参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっており、希望に応じて、随時、買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、希望があればご家族と相談・調整しながら、電話(携帯電話使用される方もあり)を掛けて話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花を飾り、七夕やクリスマスの飾りつけをしている。食堂ではその場で調理などが行なえるように配慮し、味噌汁や焼き魚の焼ける匂いを感じられるように工夫している。また、室温設定にも気を付けている。	縁側のある日本家屋を改築した共有空間は、段差をなくしたりユニットバスに変える等利用者の暮らしやすいようにしています。玄関やリビングに生花を飾ったり貼り絵などで季節を感じられるようにしています。リビングにソファや椅子、マッサージ機を置いたり、ユニット間を行き来できるように自由に過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、庭先にイスがあって、自由に出入りできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、その必要性をご家族に理解していただき、馴染みの物の持ち込みを、積極的にしてもらっている。	入居時に小さな引っ越しと考えるともらい馴染みの物を持って来てもらうよう説明し、使い慣れたタンスや棚、こたつ、三面鏡、テレビなどを持ち込基本的には家族が配置を決めています。写真や作成した作品を飾ったり、趣味のカメラや本、好みのぬいぐるみ等を傍に置き、その人らしく安心して過ごせるよう配慮しています。毎日換気し隔日に掃除を行い清潔保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に表札あり。また、利用者が生活しやすいよう、手すりを設置したり、危険なもの以外は自由に使ってもらえるように配慮している。		